

平成29年度学校自己評価システムシート（埼玉県立越谷北高等学校）

目指す学校像	生徒の夢を志に変え、進路実績をさらに伸ばすとともに、高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルなリーダーを育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の第一志望を実現し、卒業後も広い視野を持って活躍できる北高生を育成する。 2 高い向上心と規範意識を有し、品格ある逞しい北高生を育成する。 3 創立50周年に向けて、積極的な情報発信により、信頼される北高作りを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(2月1日現在)			実施日 平成30年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価
1	<p>【現状】 全校体制の進路指導・学習指導が行われている。 また、理数科や理系部活動を中心に課題研究も熱心に行われている。</p> <p>【課題】 生徒の第一志望を実現するため、主体的な学びや教科間連携を推進し、思考力・判断力・表現力を高める。 高い志と課題発見力を有する理数科生を育成するため、卒業生の活用や理数分野の関心を高める活動の充実を図る。</p>	○ 生徒の主体的な学習を組織的に推進し、学力を一層向上させる授業改善	<ol style="list-style-type: none"> ① 学習指導委員会を中心に、教科・学年・分掌が連携し、生徒の主体的な学習活動を支援する授業を行う。 ② 予習中心の学習体制を推進する。 ③ アクティブラーニング等の主体的な学びの授業を実践し、思考力・判断力・表現力を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校評価アンケートの学習指導体制の生徒満足度を90%以上、また外部機関の研修会等の参加数。 ② 北高ダイアリー等を活用して家庭学習時間を増加させる。 ③ 授業評価アンケートの「意欲的に参加した」及び「学び合いの場面がある」の割合を、昨年度より増加させる。 	<p>主体的な学習を組織的に推進し、学力を一層向上させる授業改善が緒につき始めた</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒満足度は86.2%、保護者満足度は93.1%であった。「アクティブラーニング」と「教科間連携」をテーマに授業研修を実施した。高大接続の研修に延べ10名、授業力向上研修に延べ18名が参加し、職員会議等で情報共有した。 ② 家庭学習時間は1年は1.4h(昨年1.6h)2年は1.7h(1.6h)3年は4.0h(4.1h)となっている。 ③ 「意欲的に参加した」は77.9%(昨年77.5%)、「学び合いの場面がある」は58.8%(62.7%)であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革に伴う授業改善や進路指導の新たな方向性、取り組みを企画委員会・学習指導委員会・各教科・学年と連携して推進する。 ・北高ダイアリーは来年度から生徒手帳と一体化したスケジュール手帳に変更の予定である。家庭学習の時間を増加させるために有効活用を検討する。 	<p>学校関係者からの意見・要望・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い等の主体的で対話的な学習を組織的に進め、アクティブラーニングを推進してほしい。 ・家庭学習ができていない生徒がいるので、スタディサポート等を活用して、生徒の家庭学習習慣の一層の定着を図ってほしい。 ・進路指導の満足度が87.5%と高い。総合的な学習の時間等を活用した情報提供や活動、様々なデータ分析等による丁寧で計画的な進路指導を、今後も推進していただきたい。 ・第一志望を諦めない指導はとてもよい。生徒の第一志望実現に向けて、全校体制で継続して取り組んでほしい。 ・教科間連携について、どの教科が、いつどのような内容の授業を連携して行うか等を、教員と北高生にわかるようにするとより効果的になる。
		○ 生徒の第一志望を諦めさせない進路指導を実践する	<ol style="list-style-type: none"> ① 進路行事や県指定事業等の活用により高い志を育成する。 ② 進学講習や補習の信頼度を向上させ、生徒の参加者を増加させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 第一志望校(6月時点)の合格率を40%以上。 難関国公立大合格者数(10名)、国公立大合格者数(90名)、難関私立大合格者数(80件)、準難関私立大合格者数(270件)以上。 ② 進学講習の参加者数 	<p>生徒の第一志望を諦めさせない進路指導が実践できた</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 11月の第一志望校の状況は6月を基準に、国公立大学89%難関国公立大学72%、難関私立大96%で、6月の第一志望をほぼ維持している。詳細は、国公立大学195名(6月は219名)、難関国公立大学は18名(25名)、早慶上理85名(89名)、G-MARCH66名(48名)である。 ②、夏期講習97講座で延べ3528名(昨年3233名)受講、3年平常講習は毎週20コマ開講した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート進路指導の生徒満足度87.5%で適切な指導が行われている。継続して第一志望をあきらめない進路指導を推進する。 	
		○ 高い志と課題発見力を有する理数科生の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① 理数科運営委員会を中心に、様々な組織・機関と連携し、理数分野の関心を高める。 ② 卒業生を教育の資源として有効活用する。 ③ SSHを申請し、課題発見力を育成する教育体制を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 外部機関の見学や研修等を活用し、理系研究者の使命感や課題発見力を育成する。 ② HP上に登録フォームを作成し、幅広い世代と卒業生とのネットワークを作り、講演会等に活用する ③ SSHを申請し、指定されたか。 	<p>理数科生の志と課題発見力が高められた</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1泊2日の「川の科学」研修や理化学研究所、科学博物館の見学等を実施し、課題研究や発表を通して、志と課題発見力の育成が図られた。 ② HP上に登録フォームが完成し、卒業生とのネットワーク作りが円滑になった。卒業生の情報はパンフレットや出前授業で活用された。 ③ SSH検討委員会中心に全校体制が確立され、教科間連携を活用して課題発見力・解決力を育成するSSH申請。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科間の連携を推進し、クロスカリキュラムの充実を図る。 ・更なる課題研究の充実とそれを検証するポートフォリオの構築とルーブリック評価の作成。 	
2	<p>【現状】 基本的な生活習慣と規範意識は概ね身につけている。</p> <p>【課題】 北高生が次世代のリーダーとなるために、品格と倫理観を培う。</p>	○ 正しい倫理観と品格の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① 挨拶、整容、自転車等を含む登下校のマナーや情報通信のモラル等について、自ら判断し改善できる力を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒・保護者の生徒指導満足度90%以上にする。 	<p>正しい倫理観と品格が育成されつつある</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校評価アンケート生徒指導満足度は生徒82.9%(昨年82.1%)、保護者94.4%(昨年92.3%)であった。交通安全指導、頭髪・服装、遅刻指導、登校指導の指導体制が整い、全校で実践することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールやマナーの向上のため、登下校指導の一層の強化を図る。また教育相談やカウンセリングの指導体制を整備する。 ・学習と部活動の両立が図れるよう教科や部活動顧問の連携を進める。 ・部活動や生徒会の行事、各種骨太事業の活用を通して、リーダーの育成を推進する。 	<p>学校関係者からの意見・要望・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校時のマナーについて、指導が行き届いている。 ・教育相談やカウンセリングの体制を充実させるのはとてもよい。 ・地域連携活動は、地域と北高生にとって大変有意義である。今後も積極的に参加してほしい。また、保育園の連携活動が生徒の進路実現を支援した。進路の視点でも活用してほしい。 ・北高生が中学校に赴いたり、中学生を北高に呼んだりして、勉強等を教えるなどの活動をするとよい。
		○ リーダーとして活躍できる北高生の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① 部活動や学校行事、県事業等による多様な活動により北高生の指導力・共感力を高め豊かな人間性を有するリーダーを育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 部活動入部率95%維持し、生徒会・部活動の地域連携参加25件以上、各種骨太事業の参加数(のべ20名以上)及び学校行事の生徒満足度95%以上。 	<p>リーダーとして活躍できる北高生が育成されつつある</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 部活動の加入率は93%で昨年とほぼ同じである。また、部活動を中心に23件の地域連携活動を実施した。学校行事の生徒満足度91.8%(昨年91.4%)で昨年とほぼ同じである。また、各種骨太事業の参加数は延べ29名(8事業)で増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、土曜授業公開・中学校訪問・部活動見学、学校案内の作成等を実施する。 	
3	<p>【現状】 HPや土曜授業公開等により積極的に情報発信を実施。</p> <p>【課題】 創立50周年を契機として、本校と保護者、地域等の一層の連携強化を図り、教育活動を更に発展させる。</p>	○ 多様な方法による北高の教育活動の情報発信	<ol style="list-style-type: none"> ① ホームページ、土曜授業公開、学校説明会、教育機関への説明会等を活用し、丁寧で迅速な情報提供を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 志願倍率を増加させる。また、土曜授業参加者数とアンケートの回答及び、学校評価アンケートの土曜授業満足度生徒70%以上、保護者90%以上にする。 	<p>多様な方法による教育活動の情報発信ができた</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 最新の進学希望状況は、普通科は1.60倍(昨年同時期は1.42倍)、理数科は1.45倍(昨年同時期は1.18倍)と昨年より倍率が上昇した。土曜授業参加者数は1170名(昨年1187名)であった。アンケートでは授業の取組やミニ説明会について高い評価を頂いた。学校評価アンケートの土曜授業満足度は生徒61.5%、保護者88.5%である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、土曜授業公開・中学校訪問・部活動見学、学校案内の作成等を実施する。 ・ホームページや学校説明会の一層の充実を図る。また、個別の進路説明会について学校全体で取り組む。 	<p>学校関係者からの意見・要望・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜公開授業等を活用して、北高の教育活動を積極的に発信してほしい。 ・地域連携活動等で、北高生がリーダーとして活躍した内容等を積極的に発信してほしい。 ・50周年事業に向けて、PTA・後援会・同窓会の連携を更に強化してほしい。
		○ 創立50周年に向けたPTAと後援会、地域との連携	<ol style="list-style-type: none"> ① 創立50周年事業運営委員会を中心にPTA、後援会同窓会と綿密な連携を図り、来年の50周年事業の準備を円滑に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① PTA活動の満足度85%以上、50周年事業の準備が円滑に行われたか。 	<p>PTAと後援会、地域との連携が概ねできた</p> <ol style="list-style-type: none"> ① PTA活動の保護者満足度は94.7%であった。ミニ説明会の保護者による説明の好評を頂いた。創立50周年事業運営委員会を中心に、PTA、後援会、同窓会と連携して50周年事業の準備が行われている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA・後援会・同窓会と連携し、PTA活動・生徒募集・50周年事業を実施する。 	